

春の祭典

Sir Simon Rattle
Bavarian Radio Symphony Orchestra

サイモン・ラトル バイエルン放送交響楽団

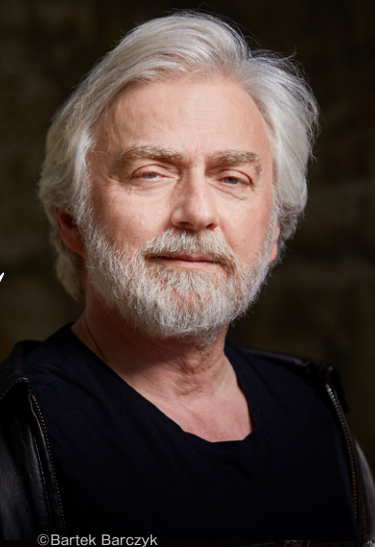
指揮
BRSO



©BR-Astrid Ackermann

「ピアノ」クリスチャン・ツイメルマン
奇跡の共演

Krystian Zimerman



©Bartek Barczyk

Program

武満 徹：鳥は星形の庭に降りる
Toru Takemitsu: A Flock Descends into the Pentagonal Garden

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第4番
(ピアノ：クリスチャン・ツイメルマン)
Ludwig van Beethoven: Piano Concerto No.4 in G major, op.58

ストラヴィンスキー：春の祭典 (1947年版)
Igor Stravinsky: The Rite of Spring (1947)

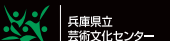
2026 11/21 (土) 5:00PM 開演 (4:15PM 開場)

A 32,000円 B 28,000円 C 24,000円
D 20,000円 E 16,000円 F 12,000円 (全席指定/消費税込)

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札ロスク / JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

ご予約・お問合せ 芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255 (10:00AM-5:00PM 月曜休み ※祝日の場合翌日)



兵庫県立
芸術文化センター



文化力
POWER OF
CULTURE

一般発売
5/17(日)

チケット
予約

●芸術文化センター 0798-68-0255 <https://www.gcenter-hyogo.jp>
●チケットぴあ <https://pia.jp/t/>

●ローソンチケット <https://l-tike.com> ●イープラス <https://eplus.jp>

芸術文化センター会員先行予約受付開始 5/16(土)

直接購入 芸術文化センター2階総合カウンター [5/19(火)より、残席がある場合のみ]

※未就学児童はご入場いただけません。※プレイガイドでの販売はインターネットのみとさせていただきます。取扱いについては、各プレイガイドにお問い合わせください。
※やむを得ない事情により出演者、曲目が変更となる場合があります。予めご了承ください。 主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

ラトルとの友情による奇跡の共演

ベルリン・フィルと双璧をなす、ドイツの名門、バイエルン放送交響楽団。今年の秋、クリスチャン・ツィメルマンとの共演が実現します。このまるで夢のような組み合わせは、指揮を執る、サイモン・ラトルの熱烈なオファーで実現したものです。ラトルとツィメルマンは、コロナ禍の2020年、ベートーヴェンの協奏曲5曲を収録したCD（オーケストラはロンドン交響楽団）により、既に固い信頼関係を結んでいます。そのツィメルマン。兵庫においては、2014年にヤンソンス率いる、バイエルン放送交響楽団との演奏以来、2回目の共演となります。リサイタルでは、何度も兵庫の舞台を訪れているツィメルマンの協奏曲を聴く機会はそう多くはなく、貴重な体験となることでしょう。曲はベートーヴェンの協奏曲第4番。ピアノで始まる冒頭、オーケストラとの対話、甘美な世界をお楽しみください。ラトルが「演奏されるべき曲」と特別な思いを抱く世界のタケミツ、そして輝けるサウンドが客席を満たす、色彩溢れる春の祭典。

前回、素晴らしい演奏を聴かせてくれた妥協なき、今最も熱いオーケストラの一つ、バイエルン放送交響楽団が、ラトルに率いられて、秋の兵庫を芸術で満たします。

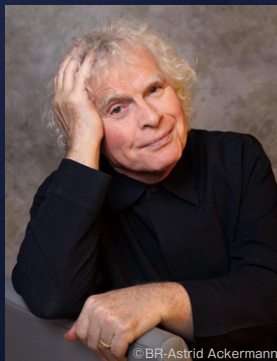


© BR-Astrid Ackermann

サー・サイモン・ラトル (指揮)

Sir Simon Rattle, Conductor

現代最高峰の指揮者の一人、サー・サイモン・ラトル。英国リヴァプール生まれ。知的で情熱的な音楽づくりとカリスマ性あふれる指揮で世界の主要オーケストラや歌劇場から絶大な信頼を集めている。1980～1998年に音楽監督を務めたバーミンガム市交響楽団で国際的な名声を確立し、同楽団を世界的オーケストラへと飛躍させた。その後、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者(2002～2018)、ロンドン交響楽団の音楽監督(2017～2023)を歴任し、現在も同楽団の名誉指揮者を務めている。2023/24シーズンよりバイエルン放送交響楽団(BRSO)の首席指揮者に就任。2010年の初共演以来築かれてきた深い信頼関係のもと、新たな芸術的展開を推進している。レパートリーはバッハ、ハイドン、モーツァルトから20・21世紀の作品まで幅広く、交響曲、オペラ、演奏会形式の舞台作品など多彩な分野で活躍。BRSOでは古楽プロジェクト「BRSO barock」を通じ、オリジナル楽器による演奏にも取り組んでいる。また音楽教育にも情熱を注ぎ、BRSOアカデミーなどを通じて若い音楽家の育成や音楽文化の普及にも積極的に関わっている。録音も数多く、グラモフォン賞、ディアパソン・ドール、ドイツ・レコード批評家賞などを受賞。BRSOとの録音ではマーラーの交響曲第6番・第7番・第9番が『グラモフォン』誌エディターズ・チョイスに選出され、第7番はディアパソン・ドールARTE賞を受賞。ハイドン《天地創造》ではピッツィカート・スーパーソニック賞を受賞した。2025年にはエルンスト・フォン・ジューメンス音楽賞を受賞、同年のグラモフォン賞では「アーティスト・オブ・ザ・イヤー」に選出されている。



© BR-Astrid Ackermann

クリスチャン・ツィメルマン (ピアノ)

Krystian Zimerman, Piano

ツィメルマンの初舞台は1962年の7歳の少年時代まで遡る。18歳で「ショパン国際ピアノコンクール」で優勝。翌年、レコード・デビューして以降、ヘルベルト・フォン・カラヤン、小澤征爾ら多くの巨匠と共演。指揮者で作曲家のレナード・バーンスタインとは15年以上にわたる交流があった。ショパン没後150周年(1999年)の前年には、ポーランド出身の音楽家で編成した「ポーランド祝祭管弦楽団」を結成。ベートーベン生誕250周年(2020年)には、この楽聖のピアノ協奏曲を全曲再録音した。1978年以来、たびたび来日し、2021年12月のサントリーホールでの公演が日本での275回目の公演となった。2003年には東京にも自宅を構えたほどの親日家。「ピアニストは楽器に興味をもつべきだ」が持論。自ら調律し、組み立てるなどピアノのメカニズムや音響学に精通し、作品解釈を極めることが、精緻で繊細な演奏を支えている。フランスのレジョン・ド・ヌール勲章受賞(2005年)、ポーランドにおける民間人の最高勲章である、星付きコマンドルス十字勲章(Polonia Restitua Commandeur Cross with Star)(2013年)など、榮譽ある名誉博士号や勲章を受賞。2022年には第33回高松宮殿下記念世界文化賞音楽部門を受賞。



© Bartek Barczyk

バイエルン放送交響楽団 Bavarian Radio Symphony Orchestra

1949年、ドイツ・ミュンヘンのバイエルン放送によって創設された世界屈指の名門オーケストラ。創設以来、オイゲン・ヨッフム、ラファエル・クーベリック、サー・コリン・デイヴィス、ロリン・マゼール、マリス・ヤンソンスといった巨匠たちが首席指揮者を務め、楽団の高い芸術性と国際的評価を築き上げてきた。2023/24シーズンよりサー・サイモン・ラトルが第6代首席指揮者に就任し、新たな芸術的ヴィジョンのもとさらなる発展を遂げている。古典・ロマン派レパートリーの深い解釈で知られる一方、カール・アマデウス・ハルトマンが創設した現代音楽シリーズ「ムジカ・ヴィーヴァ」を通じて、20・21世紀の作品紹介にも積極的に取り組み、現代音楽の発展にも重要な役割を果たしてきた。また、レナード・バーンスタイン、サー・ゲオルク・ショルティ、カルロ・マリア・ジュリーニ、ヴォルフガング・サヴァリッシュなど数多くの名指揮者が客演し、数々の名演を残している。さらに若い音楽家の育成にも力を注ぎ、BRSOアカデミーは世界的に評価の高い研修機関として知られるほか、1952年にはARDミュンヘン国際音楽コンクールの創設にも関わった。教育プログラム「BRSO und du」などを通じて、次世代の音楽文化の発展にも貢献している。数多くの録音でグラミー賞、ディアパソン・ドール、ドイツ・レコード批評家賞などを受賞し、2023年にはクラシック音楽サイトBachtrackのオーケストラ・ランキングで世界第3位に選ばれるなど、今日も国際楽壇を代表するオーケストラとして輝きを放っている。